

29	豪雪・台風・洪水	学習日	月	日	名前：
----	----------	-----	---	---	-----

教科書p186～189

### 1. 暴風雪

冬の(1)の気圧配置 = (2)が強い

雪雲が継続的に流れ込み、大雪となる

※ 日本海側が中心、中国地方や九州地方でも

除雪作業が必要、雪下ろしによる死者も

暴風雪になると(3)も発生

雪崩の原因となる

### 2. 暑夏と冷夏

夏は日本列島が(4)に覆われる = (5)の気圧配置

水不足 = 空梅雨や梅雨明けが早いと起こりやすい

※ (6)で水不足になりやすい

近年猛暑が増えている

(7) = 最高気温が35度以上

(8) = 最高気温が30度以上

(9) = 最高気温が25度以上

(10) = 最低気温が25度以上

その結果、(11)などが増加

小笠原気団が弱いと(12)となる

(13) = 夏に気温が上がらず困る

例)東北地方でやませがふき、米の不作

夏の気温には南米沖の海水温が影響

(14) = ペルー沖海水温が高い

(15) = ペルー沖海水温が低い

### 3. 台風

5月から11月に台風が発生、被害は8、9月に多い

台風は進行方向右側で被害が大きくなる

強風による(16)、低気圧による(17)の発生

強風はさまざまなものを倒壊させる

停電や農業、交通への影響も大きい

### 4. 大雨と集中豪雨

上昇気流のあるところに水蒸気が供給されると雨が降る。

それが継続し、総雨量や一定時間内の雨量が一定水準に達すると、災害が起こりやすくなる

集中豪雨が起こりやすい条件

(18)や(19)が停滞しているときに、南から湿潤な空気が流入

→ 集中豪雨になりやすい

(20) … 積乱雲が次々と発生する現象、集中豪雨が特に起きやすい

台風の風が山の斜面にあたる時も集中豪雨が起きやすい

### 5. 氾濫による洪水

河川の流量が多くなると、水位が上昇、洪水が起こる

原因 … (21)や(22)など

越流が起こりやすいところ

- ・ 橋・堰など構造物の上流側
- ・ 河川が急に曲がる場所
- ・ 河川が急に狭くなる場所

→ 破堤が起こり、建物を押し流したり、破壊したりする洪水となる = (23)

氾濫した水は低い土地に流れていく、氾濫原は平坦なので旧河道や後背湿地に大きく広がる

対策

霞堤 = 破堤を前提に、河川の水を堤内地に導水

(24)の建設

地下水路 … 首都外郭放水路 など

河川の水ではなく、堤内地の水が河川に流れないことによって起こる(25)もある

### 6. 土砂災害

大雨、地震、火山噴火などにより、山地斜面や河川の土砂などが下方に移動することで起こる

崖崩れ … 崖の土砂が崩れて下方に落ちる

地すべり … 崖など斜面が原型を留めながら下方に移動

土石流 … 岩、土砂、水、流木などが一体となって下流に流下

※ 教科書p189の図を参照のこと